２０２３年（令和５年）６月８日　木曜日

東奥日報　１５面　掲載

第70回 春季東北高校野球

第１日

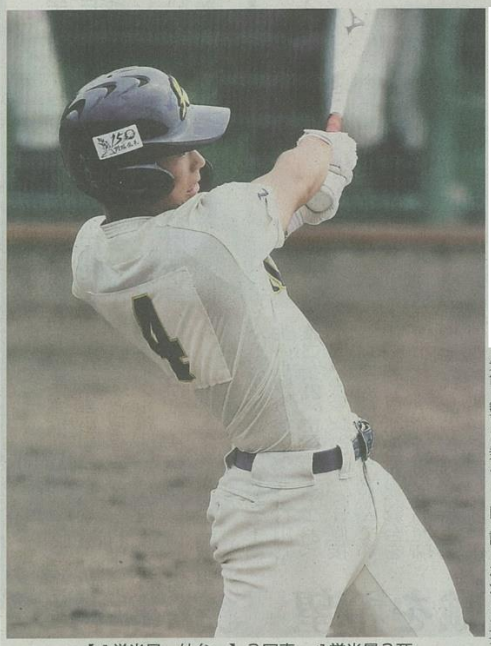
第70回春季東北地区高校野球大会が7日、岩手県で開幕し、1回戦6試合を行った。県勢2校のうち、第2代表の八学光星は13安打の猛攻で仙台一（宮城第3代表）を12－2の五回コールドで破り、準々決勝に進出した。第1代表の八工大一は4失策と守備が乱れ、盛岡三（岩手第3代表）に1－8で七回コールド負けした。第2日の8日は準々決勝4試合を実施。八学光星は盛岡市のきたぎんボールパークで鶴岡東（山形第1代表）と対戦する。（本田海輝、棟方好華）

光星 4回一挙9得点

仙台一を5回コールド

【評】八学光星が13安打12得点で初戦を快勝した。三回、長谷と池田の連続適時二塁打で3点を先制し勢いに乗ると、四回は長短5連打を含む打者一巡の7安打で9点を追加し、試合を決めた。

先発池田は毎回安打を許しながらも要所を締め、4回を無四死球無失点と好投。主戦岡本や洗平、越智らを温存し、佐藤への継投でリードを守った。



【八学光星―仙台一】３回表、八学光星２死二、三塁、池田が左越えに２点適時二塁打を放ち、３―０とリードを広げる＝花巻球場

「二刀流」池田 大車輪

「強打の光星」が格の違いを見せつけた。先発全員安打で12点を挙げ、14大会ぶりの頂点へ好発進。本職は二塁手ながら投げては4回無失点、打っては4打席全て出塁し2打点の池田は「バックのみんなにも助けられた。バッティングは狙ったボールを1球で仕留められてよかった」と笑顔を見せた。

2得点で敗れた県大会決勝で徹底できなかった「膝下の変化球の見極め」がこの日はさえた。三回は池田が内角高めの直球を引っ張り2点適時二塁打を放つなど3得点。四回は青木の二塁打を皮切りに右へ左へかっ飛ばし、打者14人で9点を奪った。決勝後、わずか1週間でさすがの修正力を発揮し、仲井監督は「課題は克服できたのかなと思う。評価できる試合だった」と総括した。

米大リーグ・大谷翔平の母校・花巻東高野球部グラウンドに隣接する花巻球場で「二刀流」として奮闘した池田。右投手不足に悩むチーム事情で投手に取り組んだのは今冬からと経験は浅いが、130キロ台後半の直球に変化球を織り交ぜ、公式戦初先発で結果を残した。

鶴岡東戦に向け、「きょうと同じようにしっかり守り、今度は自分がピッチャーを援護できるように攻撃したい」と闘志を燃やした。（本田海輝）

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです